

北海道建設新聞

2022年
(令和4年)

7月5日
火曜日

HOKKAIDO
KENSETSU
SHIMBUN.

発行所
北海道建設新聞社
〒060-0004札幌市中央区
北4条西19丁目1番地11
TEL(011)611-6311
FAX(011)621-2913

<https://e-kensin.net/>

旭川支社(0166)26-2541
苫小牧支社(0144)33-0161
帯広支社(0155)22-0401
函館支社(0138)52-3870
釧路支社(0154)41-3832
空知支社(0126)25-2444
小樽支社(0134)33-0866
北見支社(0157)23-4666
室蘭支局(0143)24-5188
留萌支局(0164)42-2443
稚内支局(0162)73-1830
網走支局(0152)44-2675
©北海道建設新聞社2022

遊水地効果など紹介

基調講演 中村北大大学院教授

建設イノベーション推進機構

建設イノベーション推進機構は4日、ウェブ配信方式で治水・利水に関する講演会を開いた。基調講演では北大大学院の中村太士教授が登場し、グリーンインフラ(GI)に関する持論を展開。流域治水に絡み、遊水地整備による治水効果の向上、地域振興の促進を訴えた。続く講演者らは本道開拓に関する技術史な

どをテーマに論じ、最新の土木技術に至るまでの過程を振り返った。同機構は2016年度に設立し、これまでに本道の産業遺産、道路、河川に関する講習会を開催。今回は5回目、基調講演と他3講演で構成する。

金沢義輝代表理事は「建設業の担い手不足、老朽化が進む施設など」の問題に当たり、マネジメント技術が求められている。いかに若手に土木技術へ目を向けてもらえ、かを念頭に活動を続けたい」と抱負を述べた。基調講演を務めた中村教授は、GIの考え方を「既存インフラとGIをどう組み合わせるか」が重要な視点」と強調。過去の大雨時に釧路温原が果たした貯留効果

などを示し、GIの防災・減災に関する効用を伝えた。併せて、こういった基盤的GIに遊水地などのGIを組み合わせる必要性を説いた。

遊水地については「石狩川中下流域には旧川の河跡湖が約50カ所ある」と紹介。「少しの工夫で地域振興にも寄与する遊水地ができる」と期待を寄せ、地域住民との円満な合意形成や土地取得を進めるべきだとした。

北大名誉教授の長沢徹明氏は「泥炭原野開拓の大志」を題目に、本道の農業土木のルーツを追った。農地整備に適さない本道泥炭地を開拓するため、研究に尽力した時任一彦氏ら偉人を紹介。篠津原野の開拓にフォーカスし、篠津運河建設に費

やした労力や技術開発について論じた。続いて石狩川頭首工改修、水田の畑地転用による地盤沈下に触れ、過去から現在に至る農業土木の流れを示した。